〈小学校　国語〉

主体的に読む力を育てる指導の工夫

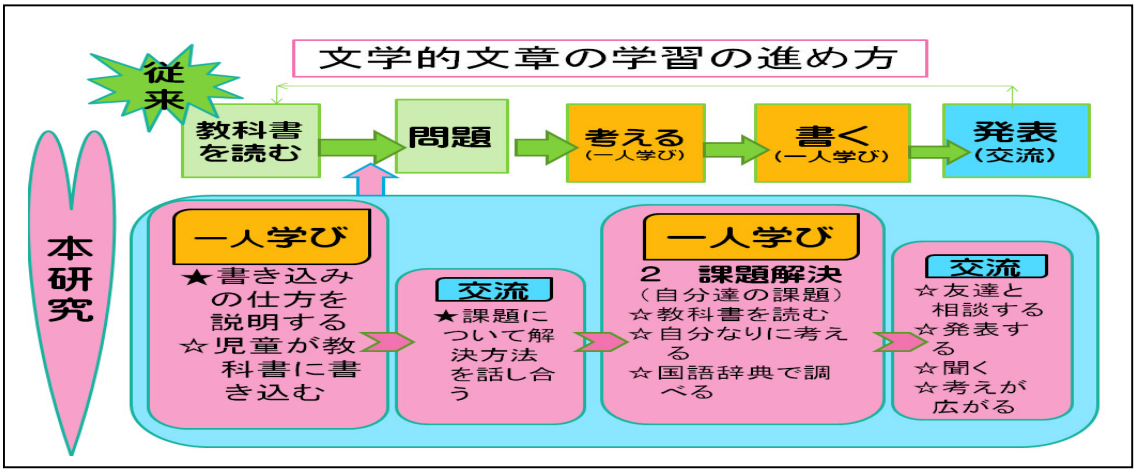
～一人学びと「交流」を取り入れた学習を通して～

南城市立馬天小学校教諭　　網　敷　藤　代

1　研究テーマについて

児童に国語科の楽しさを伝えたいという思いで授業に臨んできたが，児童に考えさせる手立てや満足感を味わわせることが不十分という課題があった。そこで，児童が自分なりに考え，満足感が持てるよう，**一人学びと交流**を取り入れた授業を実践し，主体的に読む力を育てたいという願いから本研究に取り組んできた。

2　研究の特徴



3　指導の実際

一人学び

交　流

4　研究の成果

一人学びと交流に視点を当てた学習指導の工夫をすることにより，児童はこれまでよりも自分なりの考えを持つことができるようになった。さらに，その考えを書いたり発表したり聞きあったりして，考えを深めていくことができた。また，児童が学習方法を理解し進んで学習するなど，主体的に読む力が高まってきた。

〈小学校　国語〉

主体的に読む力を育てる指導の工夫
～一人学びと「交流」を取り入れた学習を通して～

南城市立馬天小学校教諭　　**網　敷　藤　代**

Ⅰ　テーマ設定理由

国語科に求られること

進歩，発展，技術革新が急速に進む２１世紀においては，新学習指導要領の目指す「生きる力」を培う上から，学んだ知識を活用して課題を解決する探求型の学習が重視されている。新学習指導要領において，国語科のもっとも基本的な目標を「国語による表現力と理解力とを育成するとともに，人間と人間との関係の中で，互いの立場や考え方を尊重しながら言葉で伝え合う力を高めること」とし，国語科改訂の要点の一つに，「自ら学び課題を解決していく能力の育成を重視し，指導事項について学習過程を明確化した」とある。「読むこと」では，音読や文章の解釈，自分の考えの形成及び交流，目的に応じた読書という学習過程が示されており，これは，知識を詰め込む教師主導型の指導形態ではなく，児童が自ら学び，課題を解決していく能力の育成を重視していると考える。

教師と児童の実態

これまでの私自身の国語科の指導を振り返ってみると，児童の思いをあまり重視せずに，教師主導型の教え込みの授業になってしまっていた。そのため，児童は，自ら文章を読み取る楽しさや，わかる喜びを味わうことが少なく，主体的な読みの力を育てる指導が弱かったように思われる。アンケートによる児童の実態を見ると，国語科の苦手な児童が多く，その理由は「教科書の長い文を読むのが苦手」「問題に対して答えがあっているか不安」「発表をするのが恥ずかしい」と感じているように思われる。しかし，ほとんどの児童は読み聞かせや読書が好きである。このことから，受身的な読みは好むが，問題意識を持って解決していく積極的な読みの学習は苦手で，読む力がまだ十分身に付いていないと思われる。

学習指導の工夫

そこで，主体的に読む力の育成を図るために，児童一人ひとりが学習の手順や方法をわかり，自分なりの課題を持ち，解決方法を考え，課題を解決していく課題解決学習を通して，読み取った事を学び合うことで主体的に読む力を身につけさせたい。その際，一人学びを取り入れた学習を通して，個に応じた指導や学び合いの充実を図り，学ぶ楽しさや成就感を味わわせる指導の工夫を試みたい。このことは，先述した国語科改訂の要点の中の「自ら学び，課題を解決していく能力の育成」と合致したものであると考える。

課題を解決する手立て

文学的文章の学習指導において，一人学びを取り入れ，場面の様子について，登場人物の言動を中心に想像を広げながら読み，自分の思いや考えをまとめる。さらに，交流の中で友達の考えを聞き合い自分の考えを見つめ直すことで，主体的に読む力が育つであろうと考え本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説と検証計画

１　研究仮説

文学的文章の学習指導において，一人学びを取り入れて，場面の様子について，登場人物の言動を中心に想像を広げながら読み，自分の思いや考えをまとめ，交流の中で友達の考えと比べながら聞き合い自分の考えを見つめ直すことにより，主体的に読む力が育つであろう。

２　検証計画

事前に国語科に関する意識調査を行い，児童と教師の実態を把握する。検証授業を２学年文学的文章「ニャーゴ」で 10 時間行う。毎回の検証授業後，ワークシートの点検を行い，児童の学習理解の状況を把握し，その後の教材研究や授業実践に活かす。又，実験群（２年１組）と統制群（２年２組）で「一人学び」を取り入れた学習指導の工夫は，主体的に読む力を育てることにつながっているのか比較する。そして，全ての検証授業終了後，事後調査を行い，事前調査との比較をし，実験群，統制群で本研究の有効性を検証する。

<table>
<tr><td>事前調査</td><td colspan="3">・調査内容：国語科の授業に関する意識調査（アンケート）
・調査時期：第 1 時
・調査対象：馬天小学校 2 学年 50 人　　島尻管内小学校 2 学年 47 人</td></tr>
<tr><td colspan="4">検証授業の対象：馬天小学校 2 年 1 組（男子１５人　女子 10 人　計 25 人）
単　　元　　名：「ニャーゴ」10 時間</td></tr>
<tr><td>検証計画</td><td>検　証　場　面</td><td>検　証　の　観　点</td><td>主な検証方法</td></tr>
<tr><td>「ニャーゴ」
10 時間</td><td>・一人学び

・交流</td><td>①文学的文章の学習指導において，一人学びを取り入れて，場面の様子について，登場人物の言動を中心に想像を広げながら読み，自分の思いや考えをまとめることができたか。
②交流の中で友達の考えと比べながら聞き合い自分の考えを見つめ直すことができたか。</td><td>・ワークシート
・授業観察
・自己評価</td></tr>
<tr><td colspan="2">実験群（2 年 1 組）と統制群（2 年 2 組）の比較</td><td colspan="2">・物語の場面ごとの自己評価（感想）
・単元の始めと終わりのイメージマップの言葉数の比較
・単元テストで読み取った内容の比較</td></tr>
<tr><td>事後調査</td><td colspan="3">・調査内容：国語科の授業に関する意識調査（アンケート）
・調査時期：第 10 時
・調査対象：実験群（2 年 1 組）と統制群（2 年 2 組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">検証の視点：一人学びと交流を取り入れた学習指導の工夫は，主体的に読む力を育てることにつなげる事ができたか。</td></tr>
</table>

Ⅲ　研究内容

１　主体的に読む力を育てる指導について

(1) 国語科に求められている「読み」とは

『 国語は文化の基盤であり，中核である。又，社会生活の基本であるコミュニケーション は，国語によって成立している。これからの時代の中，社会の変化，国際化，情報化等への対応として，各人がより良く生きるために，国語力を一層向上させていくことが求められている。国語力を身に付けさせるための国語科教育の在り方としては，発達段階に応じ，小学校では，「話す・聞く」に加えて「読む・書く」の「繰り返し練習」により，国語力の基礎となる知識を確実に身に付けさせることが重要である。

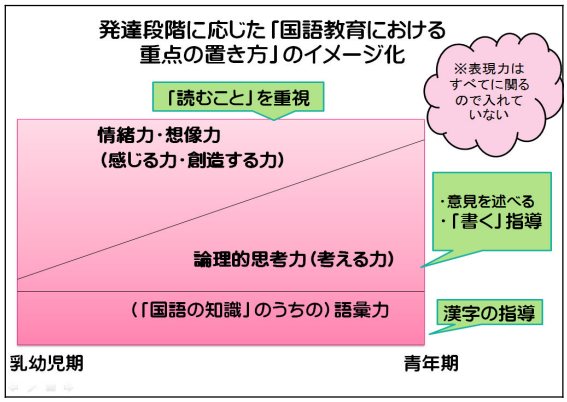


図１　発達段階に応じた国語教育の具体的な展開（文科省）

特に「読み」の学習を先行させることで，言葉の知識（特に「語彙力」）を増やすことに重点を置くべきである。又，情緒力を身に付けるためには，小学校段階から「読む」ことを重視し，国語科の授業の中で，文学作品を中心とした「読むこと」の授業を意図的・継続的に組み立てていくことが大切である。』と文科省の文化審議会で述べられているように，本研究において主体的に読む力の向上を図りたい。

⑵「読む力」について

与えられた文章の意味内容を正確に理解し，自分の考えとしてまとめて書いて伝えることが，「読む力」として捉えられる。

しかし，それら読解力テストで測られる学力だけではなく，テキストを読むことや書くことで学び，生活を彩り豊かにしていける能力，自分で読んだり書いたりしたことを他者と交流することで，さらに深い理解へ至る経験を持つことのできる能力が，これからの知識社会においては重要である。

「子どもにとって自分とつながる内容や，つながる絆が生まれるような環境や機会が与えられて初めて，言葉の力は話す・聞く，読む・書くのいずれにおいてもついていく」と，『子どもたちに必要な「読む力・書く力」とはなにか』で著者秋田は述べている。そこで，一人学びや交流を通し，子どもの言葉を聴き認めながら，読む力を高めていきたいと考える。

⑶「主体的」とは

「主体的」を国語辞典で調べると，以下の通りであった。

・自ら進んで取り組もうとする態度や意欲。自分自身の考えや判断によって行動するようす。（旺文社国語辞典）

・ある活動や思考などをなす時，その主体となって働きかけるさま。他のものによって導かれるのでなく，自己の純粋な立場において行うさま。（岩波書店　広辞苑）

・自分の意思・判断に基づいて行動するさま。（小学館　大辞泉）

「個に応じて読む力・書く力を育てる」の中で著者松木は，子ども達が自主的に学習に取り組もうとする原動力は，３つの「や」にある。それは，

〇やる気（関心・意欲がある）

〇やり方（学び方がわかり，学習に見通しがもてる）

〇やった（満足感・達成感が持てる）

である。と書いている。この３つを，主体的に読むことの原動力と捉えたい。そして，子ども達が「やりたい」という意欲（やる気）がわくように工夫していきたい。又，「やり方」を教えることで子ども達に学習への見通しを持たせ，次の学習にも喜んで取り組む力となる達成感を持たせるよう指導法を工夫していきたい。次に，学習における主体的に読む力を伸ばす活動例を挙げる。（表１）

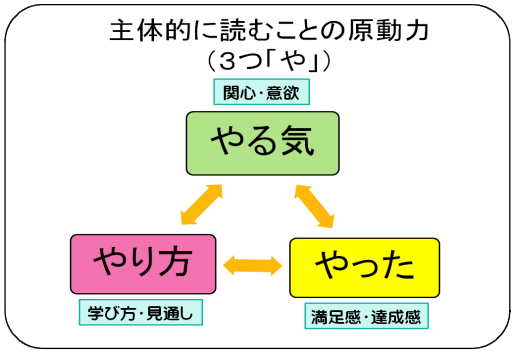


図２　主体的に読むことの原動力

表１　主体的に読む力を伸ばす活動

活　動　例	内　　容
1　役になりきる	指人形やペープサートなどの小道具ひとつで登場人物に同化します。
2　吹き出し	想像をふくらませ，会話で表現します。
3　動作化	キーワードになる言葉や文を身体で表現します。
4　読んだことをもとに	読み取ったあと創作活動に発展させ，より主体的な読み手を育てます。（紙芝居，劇，図鑑，絵本，手紙）
5　サイドライン・書き込み	大事な言葉に目を向け，積極的に文章に立ち向かっていく読み方です。
6　ワークシート	学習の目あてに沿って書くことで読みに広がりと深まりができます。（ポイント：１時間に１枚程度。考えを表現するためのワークシートにする。いつ書かせるか，授業の見

	通しを立てる。）
7　つづき話	読み取ったことをもとに，さらに想像を広げます。
8　音読発表会	人物の気持ちや場面の様子が伝わるように音読します。
9　初発の感想から課題づくり	より生き生きと課題解決に取り組めます。
10 小見出しつけ	作品全体や各場面をくわしく読み味わえます。
11 心情曲線	登場人物の心の変化をとらえ，感動を高め，読みを深めます。

※検証授業では，上記の活動例を参考に，指導時間と学年を考慮して，「１役になりきる」「２吹き出し」「４読んだことをもとに劇や登場人物へ手紙を書く」「５サイドライン・書き込み」「６ワークシート」「９課題づくり（書き込みや初発の感想から）」の活動を単元を通して行った。

(4)「一人学び」について

「学習課題をとらえ，主体的・自主的に自分のペースで学習を進める。そこから教育の 画一性，硬直性を救い，同時に学習方法を身につけさせて自己教育力を養い，生涯教育にも資するようにとのねらいである。」と「『ひとり学び』をそだてる」で齋藤は述べている。

従って，「一人学び」を自分なりの方法で課題を解決する事と考えたい。例えば，教材文とのおしゃべりを楽しむつもりで，教材文の横に自分の思った事を書き込み，分からない言葉や不思議に思った事を，教材文を読み直して読み取ったり，自分で想像したり，国語辞典で調べたりして自分なりの考えを持つ事と考える。又，漢字の練習や家庭学習等一人で書いたり考えたりする個別学習することも一人学びと考える。

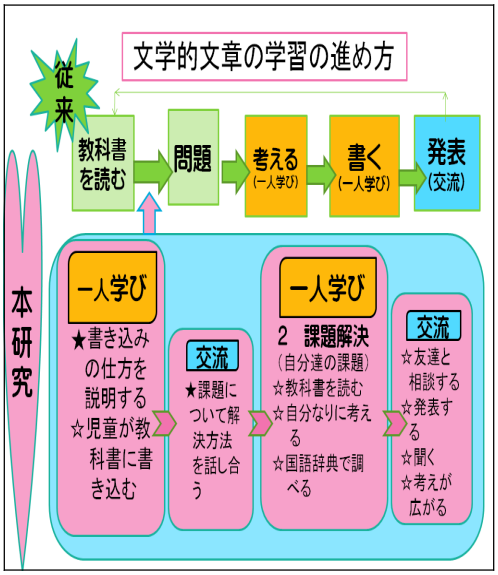


図３　学習の進め方（網敷）

資料１　「書き込み」の仕方

(5)「自分の考えの形成及び交流」について

学習指導要領解説によると，『自分の考えの形成及び交流に関する指導事項では，文章を読んで「文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。」を示している。「文章の内容と自分の経験とを結び付ける」とは，本や文章の内容や構成を自分がすでにもっている知識や経験，特に読書体験などと結び付けて解釈し，想像を広げたり理解を深めたりすることである。「自分の思いや考えをまとめる」とは，本や文章の内容や構成に対する児童一人一人の思いや考えを明確に書きまとめることである。「発表し合う」とは，互いの思いを分かち合ったり，感じ方や考え方を認め合ったりして，読みの世界を広げることであり，話し言葉による発表だけでなく，劇で演じることや書き言葉によって表したものを読み合うことなどの交流も含んで

いる。交流のための発表は，共感的な態度で受容する雰囲気をつくる配慮が必要である。』とのべられている。私も，交流の場面を多く持ち，お互いのよさを認め合う学級の雰囲気作りに努めたい。そして，何を伝えようとしているのか人の話をしっかり聞き，お互いを高めていける関係作りに心掛けたい。

２　学習指導要領における「国語科の目標」及び「読むこと」の内容

⑴ 国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

⑵「読むこと」の各学年の目標及び内容の系統表

	(小)第１学年及び第２学年	(小)第３学年及び第４学年	(小)第５学年及び第６学年
目標	(3)　書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3)　目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3)　目的に応じ，内容や要旨をとらえさせながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1)読むことの能力を育てるため，次の事項について指導する。		
音読	ア　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア　内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア　自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
効果的な読み方			イ　目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
文章の的確な解釈	イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ　目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。	ウ　目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
文章の解釈	**ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。** **エ　文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。**	**ウ　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景について，叙述を基に想像して読むこと。**	**エ　登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。**
自分の考えの形成及び交流	**オ　文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。**	**エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。** **オ　文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。**	**オ　本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。**
目的に応じた読書	カ　楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。	カ　目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ　目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

Ⅳ　授業の実際

1　検証授業の実際

回	月　日	校時	検　証　項　目	検証方法
1	6月22日（火）	3校時	①一人学びを取り入れて，場面の様子について，登場人物の言動を中心に想像を広げながら読み，自分の思いや考えをまとめることができたか。 ②交流の中で友達の考えと比べながら聞き合い自分の考えを見つめ直すことができたか。	・ワークシート ・授業観察 ・自己評価
2	6月24日（木）	2校時		
3	6月29日（火）	2校時		
4	7月 1日（木）	2校時		
5	7月 2日（金）	5校時		
6	7月 5日（月）	2校時		
7	7月 6日（火）	2校時		
8・9	7月 7日（水）	2・3校時		
10	7月8日（木）	2校時		

2　検証授業本時の指導案

(1) 単元名　　だれがなにをしたかを考えながら読もう

(2) 教材名　　「ニャーゴ」東京書籍「2年上」

(3) 単元目標　○物語の展開をとらえ，人物の行動や会話を読み取って，気持ちを想像する。
　　○作品のおもしろさを味わい，ほかの物語にも興味を持って，読書に親しむ。

(4) 単元について

①　教材観　省略

②　児童観　省略

③　指導観

７月の学習指導は，読書活動を中心とした単元として位置づけられている。１年７月教材「おおきなかぶ」でお話を読む楽しさを学び，本単元では，出来事を順序よくとらえて展開をつかむ学習をする。さらに，３年７月「ゆうすげ村の小さな旅館」では，場面の移り変わりを捉えてあらすじをまとめる学習へと発展していく。

指導に当たっては，読み聞かせを聞いた段階で一人一人の児童がどの程度話の展開を捉えているかを把握したい。その児童の実態をふまえて，場面ごとの読みとりに入る。１の場面では話の展開の前提となることを押さえたい。２の場面以降では，様子を表す叙述に着目すること，様子を順序よく押さえると変化が分かることに気付かせ，音読や動作化，サイドライン，書き込み，吹き出しなどの方法を用いて一人一人に，人物の行動や会話を読み取って，気持ちを想像させたい。

学習指導要領における，「読むこと」の指導事項は下記の通りである。

ア　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
エ　文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
オ　文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。
カ　楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。

以上のように，いろいろな場面で「読むこと」を意識して学習を進めて行く。しかし，子ども達の中に読むことを苦手とし，学習させられていると感じている児童がいる。本来，読むことの学習は自ら考え，想像する楽しいものである。そこで，上記のウ，エ，オ，カを中心に指導を行い，この時期の子どもたちに，楽しく主体的に学べる工夫をしながら学習を進めたい。

そのために，さらに「児童が意欲的・主体的に作品を読み取ったり，本の世界を広げるための手立て」として以下の指導にも取り組む。

①　単元に入る前に

○すらすら読めるようにする。（宿題や朝の会で）
○ミニ図書館（学年のワークスペース）に，作者宮西達也の作品や動物が登場する物語を置き，読書に興味がもてるようにする。

○「話す・聞く」の環境作りの工夫をする。(「話し方・聞き方名人」を掲示する。「友達のよさを認め合える雰囲気作り」について話し合う)

② 相手意識，目的意識を持って活動するために

○読書カードに，本を読んで心に残ったところやおもしろかったところを文や絵で表し，学級の友達に「読書発表会」をする。

○自分で考え，自分の言葉でまとめる「一人学び」の時間を確保する。

○児童の交流を持つことにより，互いの考えを知り読みを深めることに繋げる。
（初発の感想や振り返りカードを一覧表にして配布。ペア学習や全体での発表等。）

③ 作品の概要を捉えたり，内容を読み取る過程

○学習の順序（学習計画）を掲示し，見通しを持って学習に取り組めるようにする。

○音読の工夫をさせて読むことの楽しさを味わわせる。

○アニマシオンを使って，クイズ形式であらすじを掴ませたり，前時の内容を振り返らせたりする。

○毎時間ワークシートを作成し，自分の思いや考えが書き込めるようにする。

○低学年でも楽しく取り組めるようワークシートを工夫する。(わかりやすい言葉に気を付ける。イラストを入れカラーで色づけする等。)

(5) 学習指導計画と評価計画（全10時間）

次 (時)	ねらい	学習活動・内容	教師の支援や留意点	評価基準 【観点】(方法)	手だて ☆十分満足できる児童 ★努力を要する児童
一 (1)	・全文を読み感想を持つ。 ・漢字を確かめる。	○「ニャーゴ」を読みイメージマップと初発の感想を書く。(一人学び) ○初発の感想を発表し合う。(交流) ○新出漢字の練習をする。(一人学び)	○全文を読ませた後，本を閉じ，５分間イメー ジマップを書かせる。 ○初発の感想を書かせる。(既有の力の把握)	・「ニャーゴ」についての自分なりの感想を持つことができる。【読】(感想ワークシート)(イメージマップ)	☆心に残ったことと不思議なことの理由も書かせる。 ★友達の感想を参考にさせる。
(2)	・物語のあらすじをまとめる。	○物語のあらすじをまとめる。(一人学び) ○黒板で発表する。(交流) ○場面分けをする。(交流)	○初発の感想を一覧表に整理して配布し，友達の感想も確認する。(交流) ○アニマシオン「物語ばらばら事件」であらすじを掴ませる。 (誰がなにをした所か)	・物語のあらすじをまとめることができたか。【読】【言】(ワークシート)(振り返りカード)	☆場面の色塗りをさせる。 ★教師とおしゃべりをする感じでいわせまとめさせる。
二 (3)	・自分の思いや考えを書きこむ。	○物語文に書き込みの練習をする。(交流) ○物語文に書き込みをする。(一人学び)	○書き込みの方法を説明する。 ○書き込みをさせながら初発の感想の疑問点を重ねさせる。(自己目標)	・自分の思いや考えを行間に書くことが出来たか。【読】(教科書)(振り返りカード)	☆はてな？(不思議)に赤ペんで印を付ける。 ★心のつぶやきを言葉にするよう助言する。
(4)	・各自学習課題を追求する。	○場面ごとに読み深めたい学習課題を決める。(交流) ○読み深めるための方法を考える。(交流)	○読み深めるための学習計画を立てる。(読み深める方法も書かせる。) ○一人ひとり自力読みをさせる。(自力解決)	・各自学習課題を追求することができたか。 【読】(教科書)(ワークシート)	☆叙述に即して読み取っているか教科書のページも書き込む。 ★教師とおしゃべ

		○各自学習課題を追求する。 ・人物の気持ちを想像したり，大事だと思う所を繰り返し読んだりする。(一人学び) ・友達にわかりにくい所を聞いたりする。(交流) ○学習課題に取り組み，考えたことをを発表する。(交流) ○振り返りカードに記入し，自己評価する。(一人学び)	○読み深めているかチェックする（(机間指導)。 ○国語辞典も活用させる。 ○各場面ごとの学習課題について各自，考えをまとめさせておく。 ○一人ひとりが学習課題に取り組み，考えたことを発表させる。 ○友達と比べながら聞くようにさせる。 ○できるだけみんなが発表できるようにする。 ○考えたことを振り返り，振り返りカードで自己評価させる。(自己評価)	(振り返りカード)	りをする感じで自分なりの考えを引き出させる。
(5)	・第１・２の場面を読み，３匹の子ねずみたちとねこが出会ったときの様子や気持ちを読み取る。	○第１・２の場面を読み，３匹の子ねずみたちとねこが出会ったときの様子や気持ちを読み取る。(一人学び)(交流) ○振り返りカードに記入し，自己評価する。(一人学び)	○一人ひとりが学習課題に取り組み，考えたことをを発表させる。 ○できるだけみんなが発表できるようにする。 ○考えたことを振り返り，振り返りカードで自己評価させる。(自己評価)	・３匹の子ねずみたちとねこが出会ったときの様子や気持ちを読み取ることができたか。【読】(教科書)(ワークシート)(振り返りカード)	☆想像した理由も書く。 ★会話文や心内語に着目しそれぞれに言葉を補って気持ちを考えるように促す。
(6)	・第３の場面を読み，一緒に桃を食べるねこと子ねずみたちの様子や気持ちを読み取る。	○「ねこは・・・」の文を見つける。(一人学び) ○ねこの行動から様子　を想像する。(一人学び)(交流) ○振り返りカードに記入し，自己評価する。(一人学び)	○第３場面に「ねこは」が４回書いてあることを確認して，本時の課題につなげる。 ○ねこの行動と思ったことを順序よく結びつけさせる。 ○考えたことを振り返り，振り返りカードで自己評価させる。(自己評価)	・一緒に桃を食べるねこと子ねずみたちの様子や気持ちを読み取ることができたか。【読】(教科書)(ワークシート)(振り返りカード)	☆想像した理由も書く。 ★主語と述語を確認して心内語の（ひひひひ）に着目させる。
(7) 本 時	・第４の場面を読み，ねこの行動の変化を想像を広げて読み取る。	○４つの「ねこは・・　・」の文を見つける（一人学び)。 ○ねこの行動から様子を想像する。(一人学び)(交流) ○振り返りカードに記入し，自己評価する。(一人学び)(交流)	○第４場面に「ねこは」が４回書いてあることを確認して，本時の課題につなげる。 ○「ねこは，とまって」と「ねこは，ぴたっととまって」を比較して，「急に」「いきなり」の様子をとらえさせる。 ○考えたことを振り返り，振り返りカードで自己評価させる。(自己評価)	・ねこの行動の変化を想像を広げて読み取ることができたか。【読】(教科書)(ワークシート)(振り返りカード)	☆ねずみとの関わりも入れてねこの変化をかかせる。 ★「だんだん」という言葉を使うように促す。

(8)	・第５の場面を読み，子ねずみたちとねこの別れの様子を読み取る。	○「ねこは・・・」の文を見つける（一人学び)。 ○ねこの行動から様子を想像する。(一人学び)（交流） ○振り返りカードに記入し，自己評価する。(一人学び)	○第５場面に「ねこは」が２回書いてあることを確認して，本時の課題につなげる。 ○「ももをだいじそうにかかえたまま」「小さな声でこたえました。」に着目し，ねこの気持ちの変化について話し合わせる。 ○考えたことを振り返り，振り返りカードで自己評価させる。(自己評価)	・子ねずみたちとねこの別れの様子を読み取ることができたか。 【読】(教科書)（ワークシート）(振り返りカード)	☆動作化を取り入れたり，読み取ったことが表れるように音読させたりする。 ★教科書６８ページと７１ページの「ニャーゴ」の違いを考えてみるように促す。
三 (9)	・登場人物に手紙を書く。	○イメージマップを書く。(一人学び) ○「ニャーゴ」のまとめで，登場人物に手紙を書く。(一人学び) ○学習を終えて，学んだことを発表し合う。(達成感)（交流))	○イメージマップは初読時と同じ５分間書かせる。 ○初発の感想の不思議（疑問点）の答えをもう一度確認する。 ○「ニャーゴ」の学習を終えて学んだことをワークシートにまとめさせる。(学習意欲の喚起)	・登場人物に手紙を書くことができたか。【読】【書】(ワークシート）(振り返りカード)	☆優しさに対する宮西さんの思いも想像しながら書くように伝える。 ★これまでのワークシートを振り返るようにさせる。
(10)	・自分が読みたい本を読む。	○作者宮西達也が書いた作品や動物についての物語を読む。 ○読書記録をまとめる。 ○読んだ本を友達と紹介し合う。	○図書紹介を参考にして，学校図書館で本を選ばせ，楽しく読ませる。 ○読書記録をまとめさせる。 ○読んだ本を友達に紹介させる。	・読みたい本を読むことができたか。【読】【書】(ワークシート)	☆読書記録をまとめさせる。 ★興味・関心に応じて個別に本を紹介する。

６　本時の授業（７/10時間）

(1) 本時のねらい：第４の場面を読んで，ねこの行動を想像を広げて読み取る。

(2) 授業仮説：学習過程の中で，一人学びを取り入れて，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み，自分の考えをまとめたり，友達の考えを聞きあったりすることで，主体的に読む力が育つであろう。

(3) 準備：ワークシート，振り返りカード，４の場面の挿し絵，教科書，フラッシュカード（漢字）

(4) 授業展開　（７/10時間）

過程	学　習　活　動	指導上の留意点・個に応じた指導 (☆十分満足できる児童　★努力を要する児童)	評価方法・準備 ■検証の観点
導入 ８分	１　本時のめあてを知る。 ・漢字のフラッシュカード ・「ダウトをさがせ」で３の場面の復習をする。 ・めあてを知る。 ねこがしたことや言ったを見つけて，思ったことや考えたことを書きましょう。 ・４の場面を音読する。	 ○めあてを示す。全員で読んで確認する。 ○全員で音読する。調子を揃えてすらすら読むようにさせる。	・フラッシュカード ・めあてカード
展開 ３０	２　４つの「ねこは・・・」の文を選び出す。 ①ねこは，ぴたっととまって，ニャーゴできるだけこわい顔でさけびました。 ②ねこは，小さな声でこたえました。	○「ねこは」で始まる文にサイドラインを引く際に，句点までを１文とすることが分からない児童には個別指導する。 ○板書で確認するときに，教師と児童が一緒に書くようにする。	■検証 ①一人学び ②交流

分	③「４ひきだ。」ねこがそう言うと， ④ねこは，大きなためいきを一つつきました。 3　ねこの行動から気持ちの変化を読み取る。 （１）①の文と絵からねこの様子を想像し吹き出しに書いて話し合う。 ・こんどこそ，おまえたちをくってやる。 （２）④の文を含む部分を役割音読することによって，ねこになったつもりで吹き出しに書く。 ・なんてやさしいねずみたちなんだろう。 4　今日の学習で，ねこやねずみに，思ったことや考えたことを書く。	○「そう言うと」は何をさすのか確認する。 ○どんな時にためいきをつくか確認する。 ○「ねこは，とまって」と「ねこは，ぴたっととまって」を比較して，「急に」「いきなり」の様子を捉えさせる。 ○「さけぶ」の声の大きさを想像する手がかりとして，ねこの顔を掲示し，ねこの緊迫した様子で声を出させる。 ○①の吹き出しと同じではないことに気付かせるために，①の吹き出しを移動して掲示したり，ねこの口の大きさに着目させたりして，違いを考える手立てにする。 ○「へえ，なんびき。」～「ううん」・・・大きなため息までを劇で演じ，ねこの気持ちを想像できるようにする。 ○「ねこの気持ちがかわった」ことをみんなで確認する。 ○めあてに沿って振り返りをさせる。 ☆：ねずみとの関わりも入れてねこの変化をかかせる。 ★：「だんだん」という言葉を使い変化に気付かせる。	■検証 ①一人学び ②交流 ・挿し絵 ■検証 ①交流 ②一人学び ・お面（ねこ，３匹の子ねずみ） ・もも ■検証 ①一人学び ②交流 【読】ねこがしたことを見つけて，ねこの気持ちの変化を読み取ることができたか。（教科書）（ワークシート）
まとめ 7 分	5　本時のまとめをする。 （１）４の場面を音読する。 （２）今日の学習で「わかったこと」や「友達の頑張り」を書く。 （３）次時の見通しを持つ。	○ねこの様子に気をつけて音読させる。 ○５の場面もねこの様子が表れている言葉に気を付けて家で音読してくるように伝える。	（教科書） （振り返りカード）

7　授業仮説の検証と考察

授業仮説について，児童のワークシートの記述，児童の自己評価を基に検証する。表２ は児童のワークシートと自己評価から結果をまとめたものである。

表２　　第４場面の読みの評価（対象児童２５人）

検証場面	検証の観点	評価				検証の方法	検証結果
		十分満足できる	満足できる	やや努力を要す	努力を要す		
一人学び	・ねこがしたことや言ったことを見つけて，自分の考えを書く事ができたか。	前の文と関連して怖がらせようというねこの気持ちを書く事ができた。	怖がらせようというねこの気持ちを考えて書く事ができた。	ねこの気持ちを考えて書く事ができた。	ねこの気持ちを考えて書く事ができない。	・児童のワークシート ・授業観察	
		12 % （３人）	76 % （19 人）	12 % （３人）	0 % （０人）		88 % （22 人）

交流	・友達の劇を見たり，考えを聞きあうことで自分の考えを見つめ直すことができたか。	ねずみの優しさとねこの気持ちの変化を書く事ができた。	ねずみの優しさに気付いたねこの気持ちを書く事ができた。	ねこの気持ちを考えて書く事ができた。	ねこの気持ちを考えて書く事ができない。	・児童のワークシート ・授業観察	
		24 % （6 人）	64 % （16 人）	12 % （3 人）	0 % （0 人）		88 % （22 人）

(1) 「ねこの行動の変化を，想像を広げて読み取ることができたか。」について

ねこの言動については，教材文の中から「ねこは」で始まる文を捜すことで，学級の殆どの児童が自分で見つける事（一人学び）ができた。「ニャーゴ」と叫んだときのねこの気持ちも「食べてやる。かくごしろ。」「こわいだろう。お前らをくってやる。」等，約 9 割の児童がねこの心情をよく捉えて吹き出しに書くこと（一人学び）ができた。

又，「子ねずみがねこにももをあげ，ねこが大きなため息をついた場面」の劇を児童が演じること（交流）で，子ねずみの優しさがわかり，ほとんどの児童(約 9 割)がねこの気持ちの変化に気付いていた。そして，「子ねずみが優しくしてくれたから，ねこはかわったと思う。」と理由も書く事ができた。優しさに触れることにより人の気持ちも優しく変わることができるという，物語の主題を捉えることが概ねできたと思われる。

学習のまとめで，「ねこは，あとから子どもといっしょにももをたべたと思う。子ねずみのことを思いながら。」「ねずみさんしんせつだね。これからもずっとねことともだちになってね。」「これからも，みんなにもしんせつにしてね。」と物語のその後のことを想像を広げて書くことのできた児童もいた。

(2)「一人学びや交流を取り入れた学習指導の工夫は，主体的に読む力を育てることに繋げることができたか。」について

子どもたちが自主的に学習に取り組もうとする原動力を「やる気（意欲）・やり方（方法）・やった（満足感）」の３つの「や」と捉えた。

児童は，教科書のねこの言動にサイドラインを引くこと，その言動からねこの気持ちを吹き出しに書くこと，劇を演じることで，ねこの気持ちを読み取る方法がわかり，それにより，「ねこの気持ちの変化がわかった」という満足感を味わうことができ，その満足感が「次の場面の読み取りへのやる気」に繋がると考えられる。このことから，一人学びと交流を取り入れた学習を工夫することで，主体的に読む力に繋げることができたと思われる。

Ⅴ　研究の結果と考察

研究の考察は，国語意識アンケート（第 1 時と第 5 時と第 10 時），毎時間のワークシートと振り返りカード（自己評価），単元テストとイメージマップ（実験群と統制群）を基に行う。検証の方法については，２ページの検証計画参照。

1　一人学びと交流は主体的に読む力を育てることに有効であったか。

(1) アンケートの結果から

図４は，「国語の時間に，先生からの質問に自分なりに考えるのは好きですか」の問いに児童が答えた結果である。第 1 時で「好き」と答えた児童は，48 %で５割弱だったが，第 10 時では 64 %の児童が「自分なりに考えるのは好き」と答えている。

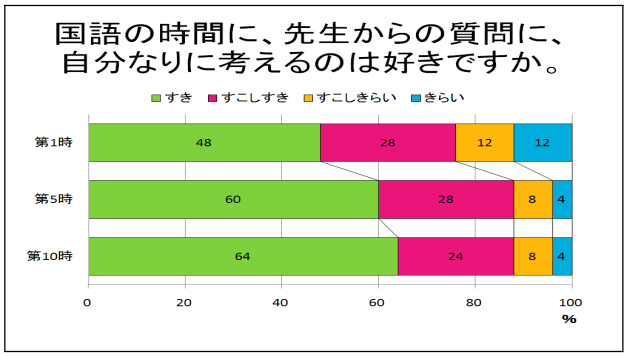


図４　自分なりに考える事

特に，第 3 時と第 4 時では，児童に書き込みや課題解決の方法等一人学びの手立てを教え，児童が課題に対して考える時間を設定した。その事で，児童は課題に対する自分なりの考えを持つことができたと思われる。その時の振り返りカードを見ると「国語がこんなに楽しいと思った。」「不思議はおもしろいし解決する方法がある。」「疑問の答えがわかった。」「今日は国語が楽しかった。」等が書かれていた。授業中の発表数も第 4 時が最も多く 28 回であった。これらのことから，一人学びの方法が分かり，考える時間を十分とることで，課題を解決できたという満足感が得られ，自分なりに考えることが好きな児童が増えたと考えられる。

図 5 は，「国語の時間に，自分の考えを発表するのは好きですか」の問いに児童が答えた結果である。「好き」と答えた児童は，第 1 時で 36 %であったが，第 10 時では 68 %で，30 %以上も伸びている。そして，第 10 時には「発表するのが嫌い」と答えた児童はいなくなった。考える時間を十分に確保することで，児童が自分なりの考えを持ち，発表する事への抵抗が少なくなってきたのではないかと考えられる。

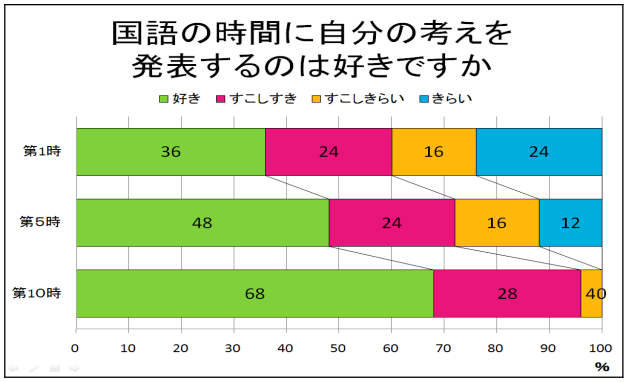


図５　　発表する事

一方，自分が発表するだけでなく，友達の意見を聞く事が好きな児童も増えてきている。

図 6 をみると，「国語の時間に友達の発表を聞くのは好きですか」の問いに対し，「好き」と答えた児童は，第 1 時で 48 %だったのに対し第 10 時では 68 %と 20 ポイントアップしていた。「友達の発表を聞くのは嫌い」と答えた児童も，第 1 時の 16 %から第 10 時の 4 %と 12 ポイント減っていた。第 4 時の課題解決の際，自分だけでは「ねこの気持ちの変化」に気付くことができなかった児童も，第 7 時で劇を演じることにより，ほとんどの児童が「ねこの気持ちの変化」に気付くようになった。自分ではわからなかったことも友達との交流により気付き，自分の考えを深めることができたと思われる。

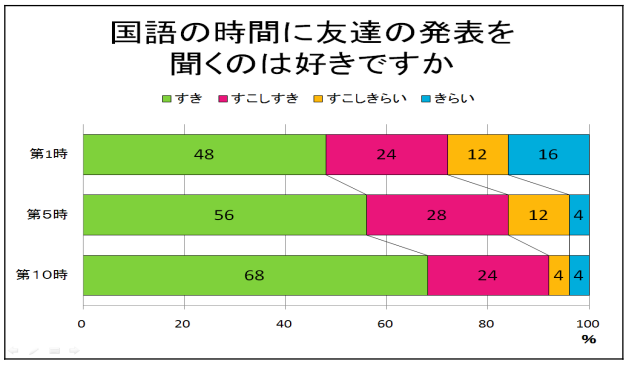


図６　　聞く事

主体的に読むことの原動力を 3 つの「や」と捉えると，「やり方」がわかり，「やった，わかった」という満足感が持て，意見を聞いたり発表したりする「やる気」が出て来たことから，一人学びと交流は主体的に読む力を育てることに有効であったと考えられる。

(2) イメージマップによる変容

図 7 は，「ニャーゴ」の学習の第 1 時と学習終了時の第 10 時に 5 分間とって書いたイメージマップから，物語「ニャーゴ」に対する，学級の「言葉の総数の変化」を表したものである。実験群と統制群を比較した結果，伸び率が統制群ではほとんど変わらなかったのに対し，実験群では 2 倍以上になっていた。言葉の総数も第 1 時では，統制群の方が多かったのに対し，第 10 時では実験群の方が 300 を越え，統制群を上回った。自分なりに考える時間が増え周りの

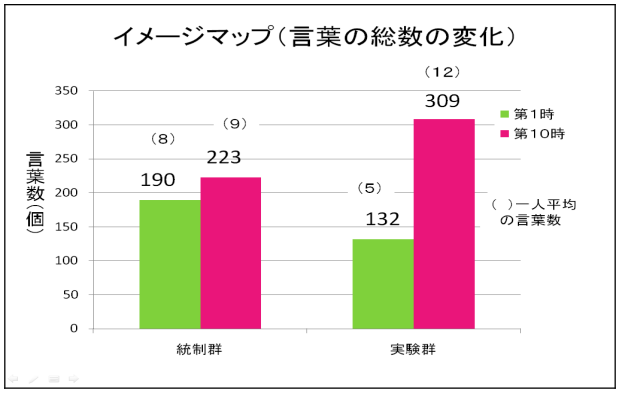


図７　イメージマップ（言葉の総数の変化）

意見にも耳を傾けるようになり，言葉の数が増えたと考えることができる。

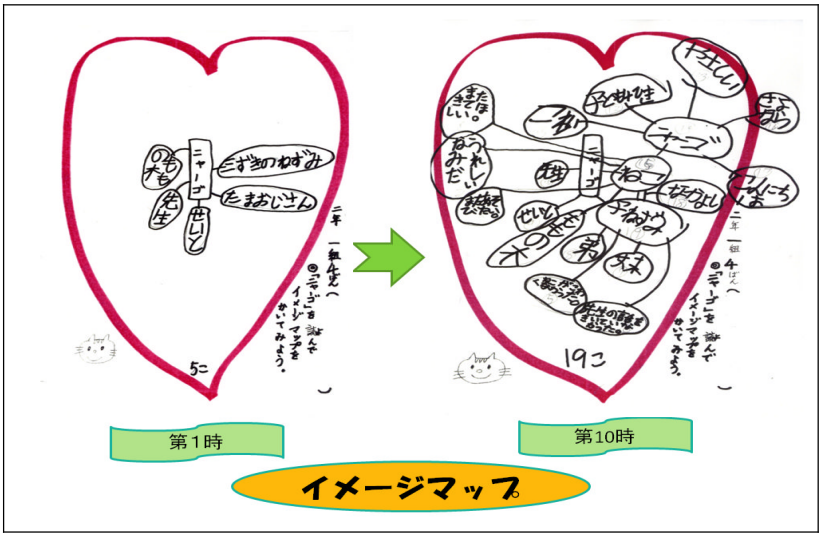
次に，資料２のＡ児を見ると

① 言葉の数がふえており，内容理解が深まっている。

② 学習中の大事な言葉（主題と関係する言葉）が増えている。

③ 気持ちを表す言葉が見られるようになっている。

④ 第１時では登場人物の一人ひとり別々に書かれていたのが，第 10 時では，関係のある言葉どうし結ばれている。



資料２　イメージマップの変容

ねこと子ねずみが線で結ばれていて「なかよし」の言葉が２匹の間に書かれている。

以上の結果より，児童が作品を豊かに読むようになっていることが推察される。学習終了時（第 10 時）のイメージマップを書き終えた後，第 1 時に書いたイメージマップを児童に配布し，比較させたところ，言葉数が増えたことに気付き，驚きの声をあげる児童が多く見られた。

（3）単元テストの結果による変容

実験群と統制群の単元テストの平均点から推察すると，一人学びと交流を取り入れた実験群では平均 93 点であったが，取り入れない統制群では平均 88 点であった。この結果から，一人学びと交流を取り入れた学習は，読みの力を高めることに有効であったと考えられる。

（4）物語の学習方法の理解について

各単元において，どのような方法で学習するか理解することは，児童が見通しを持って主体的に学習することに繋がる。そこで文学的文章において，第 1 と第 10 時に児童がどのくらい学習方法を理解しているか比較してみた。

図８は，「物語の勉強をする時は，どんなことをしたらいいですか」の問いに対する児童のアンケートの結果である。第１時の事前アンケートでは，実験群，統制群共に一人平均１項目で，内容はどちらも「教科書を読む」が主であった。第 10 時の事後アンケートでは，統制群は第１時と変わらず 一人平均 1 項目であったのに対し，実験群は一人平均 3 項目になり，内容も「教科書を読む」の他，「国語辞典で言葉の意味を調べる」「自分なりに考える」「友達に聞く」等，疑問点を解決していく方法も理解している様子が窺える。これは，教室に「物語の学習の順序」（資料３）を掲示し，単元の学習の流れと，毎時間，本時の学習内容の確認をしたことも，理解の一因になったと思われる。又，教材文へ「書き込み」をしたり，みんなから出た不思議（疑問）を

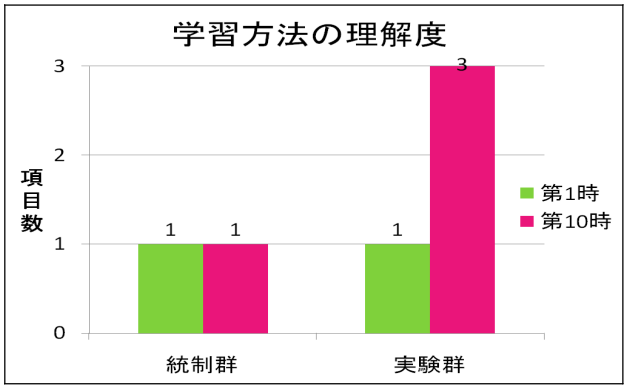
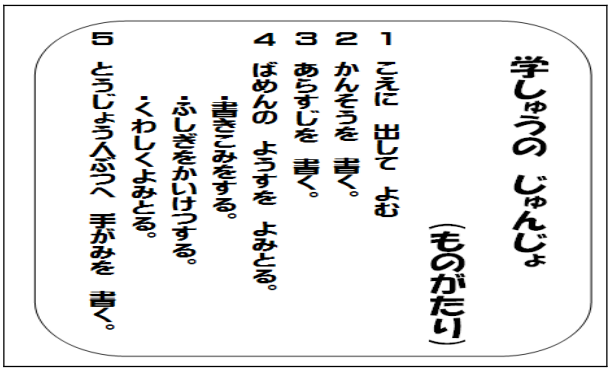


図８　物語の学習方法の理解度（項目数）
（ 実験群25名　統制群25名）



資料３　学習の順序（物語）

実際に自分なりに解決する一人学びの時間や，みんなで自分の思いを発表し合う交流の時間を確保したことにより，学習方法を少しずつ理解することができるようになったと推察される。見通しを持って学習することは，主体的に読む力を育てることに有効であったと考えられる。

表３　　児童の理解している物語単元の学習方法

	第１時間目		第 10 時間目	
統制 25 群人	○写本する（11 人） ・漢字を調べる（９人） ・教科書を読む（７人）　等	一人平均（１項目）	○教科書を読む（12 人） ・写本する（４人） ・読書（３人）　等	一人平均（１項目）
実験群 25 人	○教科書を読む（21 人） ・場面を分ける（４人）　等	一人平均（１項目）	○教科書を読む（18 人）　・友達に聞く（５人） ○国語辞典で調べる（12 人）　・不思議の解決 をする ○自分なりに考える（10 人）　（５人） ・「ダウトをさがせ」をする（９人）・書き込み（3 人） ・あらすじを書く（８人）　・登場人物に手紙（3 人）等	一人平均（３項目）

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

１　研究の成果

（1）一人学びの手立てを指導する事により，児童が文学的文章の学習方法を理解し，進んで学習するなど、主体的に読む力を高めることができた。（Ｖ－１－(1)(4)）

（2）一人学びで自分なりの考えを持つことにより，書く事に対する抵抗も減り，読む力が増した。又，自分の意見を発表したり友達の話を聞いたり等，交流の意欲も高まってきた。（Ｖ－１－(1)(3)）

（3）一人学びや交流を取り入れた学習を通して，国語や読書をきらいという児童がいなくなった。国語が好きになるということは，国語学習へのやる気に繋がる。（Ｖ－１－(1)(2)）

２　今後の課題

（1）一人学びの質の向上を図るため，効果的な指導の在り方。

（2）児童間交流の際の効果的な教師の発問と，児童の意見のまとめ方。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『これからの時代に求められる国語力について』	文化審議会	2004 年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説　国語編』	東洋館出版社	2008 年
沖縄県教育委員会	『「確かな学力の向上」支援プラン』		2010 年
田近洵一編著	『国語教育指導用語辞典』	教育出版	1997 年
齋藤喜門　著	『「ひとり学び」を育てる』	明治図書	1989 年
藤田伸一　著	『一人読み・話し合いで「読みの力」を育てる』	学事出版	2006 年
松木聖子　著	『個に応じて読む力・書く力を育てる（児童心理Ｎ０.863）』	金子書房	2007 年
秋田喜代美著	『子どもたちに必要な「読む力・書く力」とはなにか（児童心理Ｎ０.863）』	金子書房	2007 年